

J-BIM 施工図 CAD 2017 の新機能

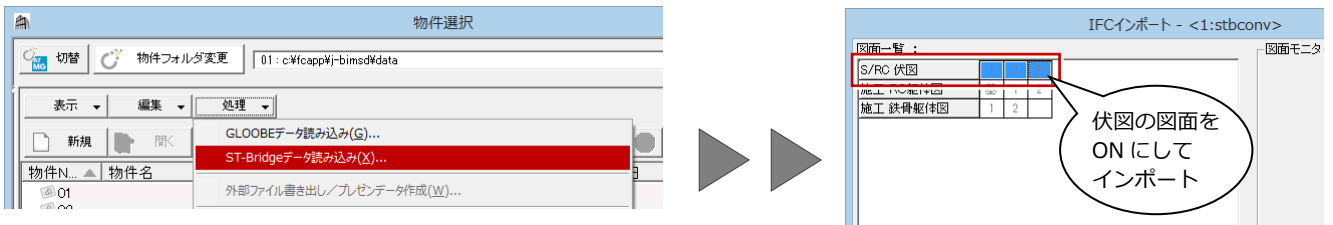
共通機能	
物件選択で ST-Bridge ファイルをインポートするとき、作成対象の図面に伏図を追加	1
記号マスタ	
梁の記号項目に「ハンチ長」「最大幅」「最大せい」を追加し、ユーザー設定項目を 4 個から 7 個に拡張	1
リスト登録	
壁の符号に文字枠囲いの設定を追加し、図面や積算画面で枠や括弧の表示に対応	2
RC 躯体図	
梁やスラブに部分フカシがある場合、全体幅、せい、厚さの全種類表示に対応	2

RC 躯体図／鉄骨躯体図	
躯体断面図の再作成時に、加筆修正した汎用データを保持できるように対応	3
見上図や伏図など汎用図面の作成時に、通り芯間・追出し寸法の作成条件を設定できるように対応	3
鉄骨部材（柱・梁・ブレース）の記号に、メンバーを表記できるように対応	3
ST-Bridge・IFC ファイルの読み込み時に、既存データを削除する旨の警告メッセージを表示	3
伏図	
ファイル読み込みの対応ファイルに ST-Bridge・IFC ファイルを追加	4
ファイル書き出しの対応ファイルに IFC ファイルを追加	4

共通機能

ST-Bridge データ読込の拡張

物件選択画面で、ST-Bridge ファイル (*.stb) をインポートするとき、作成対象の図面に伏図を追加しました。市販の構造計算プログラムから、ST-Bridge ファイルを介して、伏図への連携が可能になります。



記号マスタ

梁の記号項目の追加、拡張

基礎梁と RC 梁の記号に「ハンチ長」「ハンチ幅（端部）」「ハンチせい（端部）」の項目を追加しました。また、ユーザーが設定できる項目を 4 個から 7 個に増やしました。梁の記号を表現できるタイプが増えます。

項目設定：基礎梁

デフォルト項目	記号	項目名	サツ%
B	①/天しヘル		0
C	構造幅		400
D	左フカ厚		0
E	右フカ厚		0
F	左断熱厚		0
G	右断熱厚		0
H	構造せい		700
I	上フカ厚		0
J	下フカ厚		0
K	全幅(構造幅+フカ厚+断熱厚)		0
L	全せい(構造せい+フカ厚)		0
M	ハンチ長		0
N	ハンチ幅(端部)		0
O	ハンチせい(端部)		0

追加した項目

設定項目	名称	内容(数値は記号の前に)	イメージ	計
1	①/天(構造天)	#B(WA)	[±0]	Z1
2	全幅(構造幅)	#K(WC)	[400]	Z2
3	全高(構造高)	#L(WH)	[700]	Z3
4				Z4
5				Z5
6				Z6
7				Z7

設定項目を 3 個増設

【基礎梁の記号設定】

項目設定：RC 梁

デフォルト項目	記号	項目名	サツ%
C	構造幅		400
D	左フカ厚		0
E	右フカ厚		0
F	左断熱厚		0
G	右断熱厚		0
H	構造せい		700
I	上フカ厚		0
J	下フカ厚		0
K	全幅(構造幅+フカ厚+断熱厚)		0
L	全せい(構造せい+フカ厚+断熱厚)		0
M	全せい(構造せい+フカ厚+断熱厚)		0
N	ハンチ長		0
O	ハンチ幅(端部)		0
P	ハンチせい(端部)		0

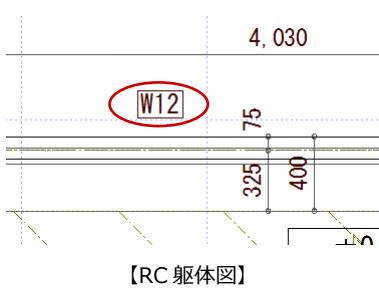
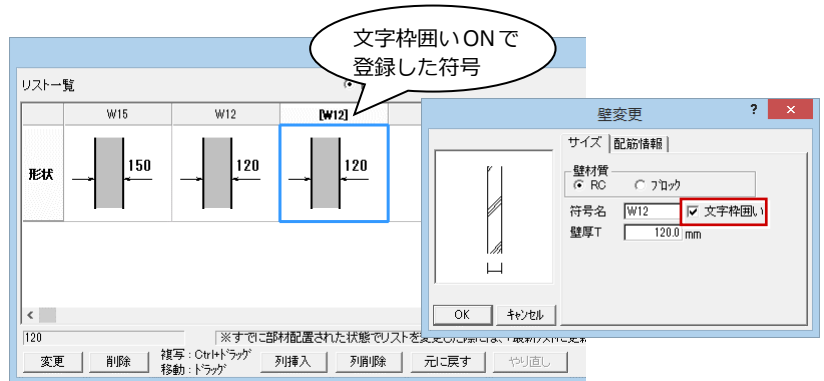
設定項目	名称	内容(数値は記号の前に)	イメージ	計
1	①/天(構造天)	#B(WA)	[±0]	Z1
2	全幅(構造幅)	#L(WC)	[400]	Z2
3	全高(構造高)	#M(WH)	[700]	Z3
4				Z4
5				Z5
6				Z6
7				Z7

【RC 梁の記号設定】

リスト登録

壁符号の枠囲いに対応

壁の符号に枠囲いする設定を追加しました。耐力壁など、他の壁との枠囲いによる区別が可能になります。RC 躯体図、断面図、リスト図では、枠囲いで表記され、積算画面では括弧付きで表記されます。



壁断面リスト 1/30

符号	W15	W12	W12
断面図			
壁厚	150	120	120

【リスト】

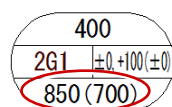
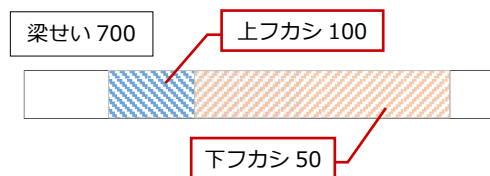
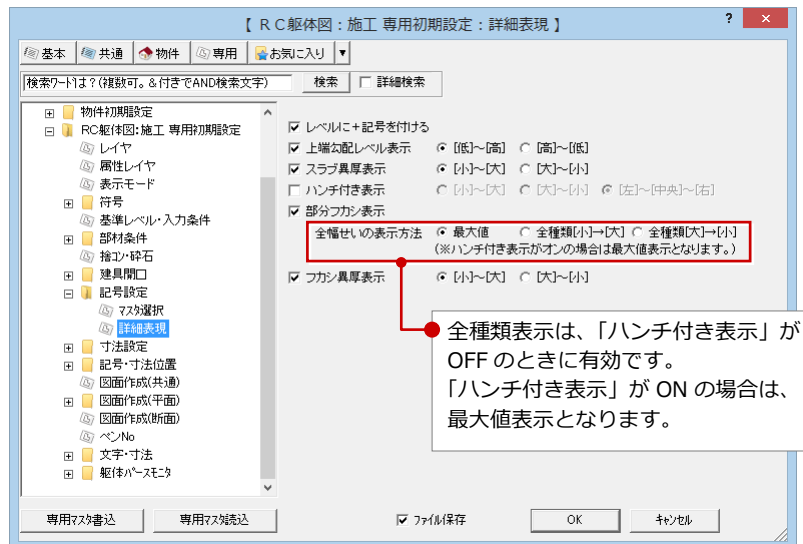
符号	No	通り	種別	コウサ	計算
W12	3	□-Y1間	躯体 重複	0.875 × 1.220	▲0.875 × 0.13
W12	4	Y3通り X1-X2間	躯体 開口	6.000 × 2.700	▲4.000 × 1.55

【RC 躯体積算】

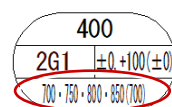
RC 躯体図

部分フカシの全種類表示に対応

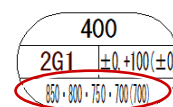
梁やスラブに部分フカシがある場合、全体幅、せい、厚さを全種類表示できるように対応しました。梁の記号で、表現可能な項目が増えます。



【最大値】



【全種類[小]→[大]】



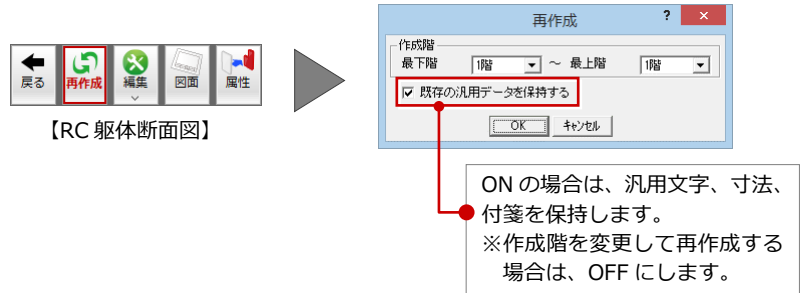
【全種類[大]→[小]】

RC 躯体図／鉄骨躯体図

躯体断面図再作成の拡張

躯体断面図を再作成するときに、加筆修正した汎用データを再作成しないように設定を追加しました。

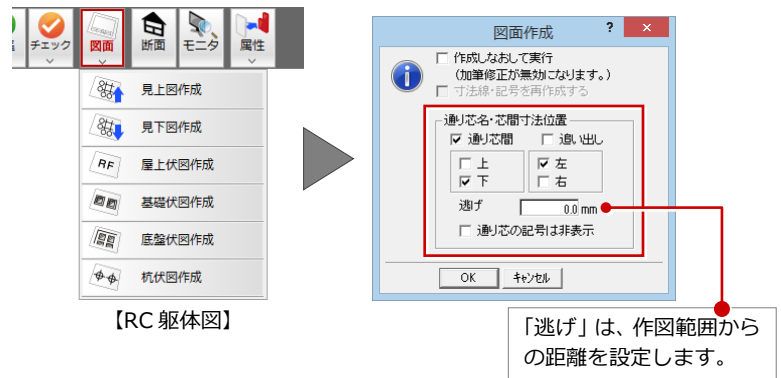
加筆修正した汎用データが保持されるので、保護するデータを退避させるなどの手間が省けます。



図面作成時の作図設定に対応

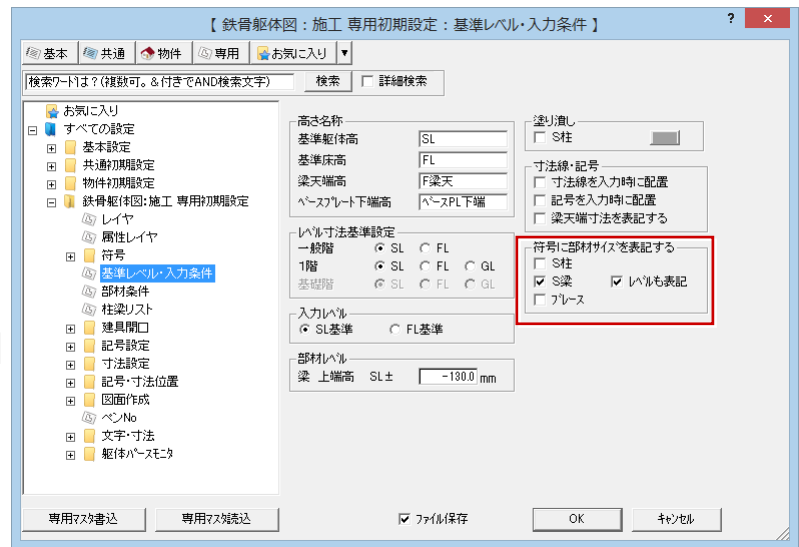
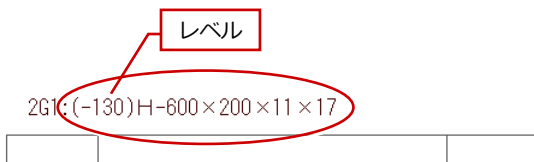
見上図や梁伏図など、汎用図面を作成するときに、通り芯間寸法、追い出し寸法などの作図設定ができるように対応しました。また、通り芯記号を非表示にできるようにしました。

専用初期設定画面に戻って再設定する必要がなくなり、すぐに設定して作成することができるようになります。



鉄骨部材のサイズ表記に対応

鉄骨部材にサイズを自動表記できるように対応しました。梁は、レベルも表記可能です。躯体図にメンバー表記する手間が省けます。RC 躯体図に入力した鉄骨部材にも有効になります。



データ読込時の警告表示に対応

躯体図で IFC ファイル (*.ifc)、ST-Bridge ファイル (*.stb) を読み込む際に、既存のデータが削除される旨の警告メッセージを表示するように対応しました。

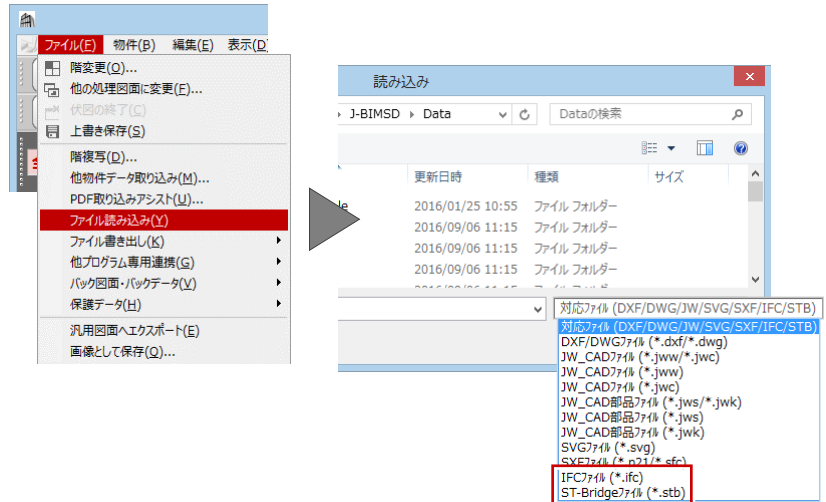


伏図

読込ファイルの拡張

伏図にも ST-Bridge ファイル (*.stb)、IFC ファイル (*.ifc) を読み込みできるように拡張しました。

市販の構造計算プログラムから、ST-Bridge ファイルを介しての連携が可能になります。



IFC ファイルの書込対応

伏図のデータを、弊社の BIM 建築設計システム「GLOOBE」やその他の IFC 読込対応ソフトへの連携が可能になります。

